

学校教育目標		向学と友愛の精神を持ち続け、自己実現をめざす生徒の育成		重点目標		望ましい人間関係をつくり、思考力・表現力を高める教育活動の工夫			
評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画	
重点目標に関する評価	重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標	評価	結果(成果○と課題▲)	評価	コメント	次年度における改善策(案)	
	【重点1】 確かな学力の向上 (基礎・基本の定着、及び、思考力、表現力を高める学習指導の推進)	毎時間、めあての提示(確認)とまとめのある板書をし、個に応じた手だてを工夫する。	めあてを理解し、積極的に学習に取り組み、学習内容を理解できる生徒 80%以上(授業アンケート)	4	○アンケート結果から学習指導の充実が伺えるが、今後も継続して「わかりやすい授業」を工夫する。	A	・個々に目標を立て、それに向けた努力の成果が見える。	・毎時間のめあての提示と確認およびまとめのある板書、振り返りの時間の確保を、各教科で徹底させる。	
		各教科の授業の中に、思考したり表現したりする活動場面を設定する。	自分の考えをまとめて書いたり、表現したり、発表内容を理解したりできる生徒 80%以上(同上)	4	○各教科の授業で思考力・表現力を高めるための表現活動等ができた。	A	・生徒の落ち着いた学習態度や雰囲気、教室内の掲示の工夫等、学習成果にも現れている。	・思考力・表現力を高めるため、各教科における言語活動をさらに工夫して充実を図る。	
		各教科の学力向上プランを作成し、改善策を明らかにして学期毎に実施する。	各種テスト等で前年度より向上している生徒 50%以上(各種テスト結果)	4	▲今もされているのだが、個別の補充指導等、理解不足の生徒に対する手だての工夫がさらに求められる。	A	・教材研究等、先生方の授業の充実の取組が十分なされていると思う。	・自学ノートを効果的に活用し、放課後や長期休業中の補充学習をさらに充実させる。	
		校内公開授業研究会では、視点を明確にした観察による検証を行い、授業検討会を実施する。	先生の指導・教え方や「わかる授業の工夫」を認めている生徒や保護者 80%以上(学校生活アンケート等)	4	▲思考力・表現力を高めるためのさらなる工夫(言語活動を位置づけた学習活動の展開と充実)が必要である。	A			
	【重点2】 豊かな心の育成 (社会性、特に、人間関係力の向上)	挨拶・言葉遣いについて観察や調査等で状況を確認し、機会をとらえて生徒の意識を高める。	挨拶等について「できている、だいたい」と答える生徒 85%以上(教師等の評価前年度比較での向上)	4	○挨拶等は多くの生徒ができるが、個別的に見て不十分な生徒への指導を継続する。	A	・ほとんどの生徒は挨拶できているが一部がしていない。	・挨拶や返事等について、個のレベルに応じて、継続して指導する。	
		規範意識について諸調査・アンケートにより確認をし、ポイントの低いものを重点化する。	生活意識調査等で規範意識を持ち、前向きな回答をする生徒 85%以上	4	○体育会やコーラスフェスティバル等の学校行事や「学びの旅」の学習では生徒同士だけでなく保護者や地域の方々と学びの機会が多く設定でき、例年以上に交流やふれあいを深められた。	A	・先生と生徒、学校全体の雰囲気が良いと思う。	・人間関係力、社会性を高める諸活動の工夫をして、学級づくり、学年集団づくりの充実を図る。	
		学級目標の達成度等について学期末ごとに振り返りと報告を行わせる。(生徒総会・各終業式)	学校生活アンケート等で学校生活への満足度が高い生徒 85%以上	3	▲人間関係力の向上の面で、個別に課題が残るので、今後さらに指導の工夫が必要である。	A	・これまでの取組を生かし、地域活動に反映できている。	・生徒会活動や学級活動において、これまでに以上に自主的に取り組める場の工夫を図る。	
		様々な体験活動毎の振り返りや発表会・レポートによる報告を行わせ、交流の場を設定する。	発表や報告書作成に積極的に参加できたと感じる生徒 85%以上(授業アンケート)	3		B	・生徒の規範意識の高さを実感することが多い。		
	【重点3】 教職員の協働体制の推進	学校運営参画意識を高めるため、運営委員会を週1回、開催し、目的や手だて等を確認する。	「教師による教育課程評価」(校務分掌)の結果 プラス傾向回答 85%以上	3	○主任・主事としての意識向上や教職員の協働体制づくりはできたが、連絡不足が一部、あった。	A	・廊下、教室での展示物がわかりやすく貼ってある。	・協働体制の充実のため、諸会議の時間と場の設定を工夫する。	
		各担当者からの定期的な報告・連絡・相談を受け、適切に指導・助言する。	各担当の企画・立案による実施、及び、教師相互の内滑り連絡・調整 80%以上(行事等の反省アンケート)	4	○個人面談によって目標設定をして、その成果と課題を、より明確にできた。	A	・生徒を中心にすえ連携して取り組むことが必要である。	・教職員の意識改善のため時機をとらえて管理職から話し、報告・連絡・相談の徹底を図る。	
		各会議等で状況報告や情報交換を徹底し、諸機関との連携を図る。	個人面談の際の成果と課題の確認、および、明確な目標設定 85%以上(自己評価表の集約)	4	▲管理職への報告・連絡・相談の徹底について意識改善を進める。 ▲生徒指導等、組織的な取組という面で課題が残る。	A	・先生方が十分に話し合える時間の保障が大切である。	・担当者を決めて、他機関との連携をさらに推進する。	
	【重点4】 地域に開かれ、信頼される学校づくり	学校関係者評価委員会等の助言に基づいて、意見や提言を学校運営に生かす。	学校関係者評価委員等からの指導・助言の活用(向上傾向があるか)	4	○会を毎学期1回開催でき、貴重なご意見をいただき、改善に活かした。	A	・各種通信はよく行き届いていると思う。見てくれない人には絶対に届かない情報を様々な機会を提供していけばよい。	・アンケートの取り方や内容の工夫等を行い、回数を増やして、保護者や地域の方々から意見を集約する。	
		学校再編に向けての組織的な対応を計画し、推進体制をつくり、再編準備を進める。	月1回発行する再編協議会だよりでの進捗状況等の情報提供	4	○メッセージボードや学校通信、各種通信等での情報提供は十分できた。保護者の元に届いているか課題が残る。	A		・PTA役員会や行事等を活用して、保護者からの意見・感想を集約する機会を設定する。	
		月2回の学校通信発行や週1回のMボード更新で、生徒や保護者、地域に情報を発信する。	保護者・地域等からの意見や感想等の集約(向上傾向があるか)	3	▲保護者や地域の方々から意見を聴取する機会をさらに設けて、アンケート結果の分析を活かせるようにする。	B	・学校再編だよりや学校通信等の情報がわかりやすい。		
	【重点5】 特別支援教育、及び、教育相談体制の確立	支援を必要とする生徒の校内ケース会議の内容を検討し、具体的な支援策等を実施する。	支援を必要とする生徒の、学校生活に関するアンケート結果や感想(向上傾向があるか)	3	○特別支援教育推進委員会によって情報共有ができ、共通理解して該当生徒への指導・支援ができたが、十分とは言えない。	A	・指導体制を含め特別支援教育をさらに推進してほしい。	・支援を必要とする生徒、および、不登校・不登校傾向生徒に関して、保護者を含めた具体的な支援計画を立て、支援する体制づくりをする。	
		特別支援委員会を定期的に開催し、情報を共有して、指導や支援に生かす。	こすもす教室在籍生徒への具体的な支援策の実施(向上傾向があるか)	4	○関係機関と連絡を密にとって連携を図ることができ、支援体制ができた。	A	・丁寧な学習サポートをさせていただいていると思う。	・担当者を中心に、学校全体でのサポート教室の運営を工夫・充実させる。	
		サポート教室担当教諭を中心にSCや諸機関への相談充実を図り、保護者や生徒を支援する。	不登校生徒、および、支援を要する生徒への具体的な支援策の実施(向上傾向があるか)	3	▲今後も、保護者も含む、不登校・不登校傾向生徒への具体的な支援計画を立てて支援していく必要がある。	A	・関係機関との連携が丁寧で事前・事後の報告がされ、具体的に協働できている。		

◇ 学校評価について

・【自己評価】

4: 目標達成(90%以上)

3: ほぼ達成(70%~90%)

2: もう少し(60%~70%)

1: できていない(60%未満)

・【学校関係者評価】

A: 自己評価は適切である

B: 自己評価はほぼ適切である

C: 自己評価は適切でない

D: 自己評価は不適切である